

目次

□巻頭言 建設機械の研究開発と講義を……………定井喜明/1

大柿ダムの施工計画……………片倉慎介/3
正木政方

双葉ダムアスファルトフェーシングの施工……………中村孝明/8
松古永川和啓彦

新中野治水ダムかさ上げ工事の機械設備……………佐藤勝三/17
南根上義昭

大型フローティングクレーンによる……………若宮勝行/24
蒲刈大橋の施工

超大型変断面スリップフォーム工法……………福島啓一/33
(TAPS)の開発 安藤藤寿之介

昭和55年度 J.C.M.A. 欧州建設機械化視察団報告……………野村昌弘/39

グラビヤ—バウマ 80 国際建設機械展示会など

□昭和54年度官公庁、建設業界で採用した新機種

建設業界……………佐藤裕俊/45

□随想 地熱エネルギーに期待する……………藤森謙一/64

昭和55年度建設機械展示会(仙台)見聞記……………今野学/66

第31回定時総会開催……………/69

□新機種ニュース……………調査部会/79

□文献調査

下水道工事用の荷役器具……………広報部会文献調査委員会/84

□整備技術

機械マネージャの任務と使命(7)……………整備技術部会/86

□統計

建設工事受注額・建設機械受注額・建設機械卸売価格の推移……………調査部会/88

行事一覧……………/89

編集後記……………(西出・大平)/92

◀表紙写真説明▶

分割型堅坑掘削機

S-260D バイブラム

住友重機械建機販売株式会社

本機は山岳地や離島など従来機械の搬入が困難なため人力作業に頼っていた深礎工事を機械化するために開発した、このタイプでは我が国初の堅坑掘削機で、次のような特長を有する。

- ① 本機1台で掘削、排土、ダンプの各作業が一貫して施工できる。
- ② 最大掘削深さが14.2mと大きい。
- ③ ブレーカをワンタッチで着脱できるので岩盤の掘削も容易にできる。
- ④ バックホウ←→パイプグラムのアタッチメント交換が短時間でできるので仮設工事や口開け工事に余分の機械を必要としない。
- ⑤ 穴の形状や大きさに限定されない。
- ⑥ 1ブロックが1.3tまたは2.3tの分割タイプであるから索道やヘリコプターで簡単に現場に搬入できる。